


# 長 生



平成 26 年 3 月 号

目 次	
会長の言葉	日本長生医学会会長 柴田政宏
宗 教 編	
法 話	得勝寺 本庄一治… 1
長生医学編	
女性の骨粗しょう症の一症例	北海道 近藤三紗子… 3
下部腰椎の調整により軽快する側弯症の諸症例	神奈川県 西田明生… 5
第1回 旭川支部 ケース・カンファレンス・レポート	
	日本長生医学会旭川支部長 大村和彦…13
随 想 編	
3年間が終って	3年 夜間部 中野菜緒…15
三年生を迎えるにあたって	2年 夜間部 小泉さやか…16
「ご縁」に導かれて	1年 昼間部 大泉壮太郎…17
医 療 情 報	18
長生ひろば	19
長生会便り	
本部案内	20
支部案内	22
支部報告	26
計 報	25
学 園 便 り	
案 内	25

日 本 長 生 医 学 会

## 会長の言葉

総本山長生寺管長 柴田政宏  
日本長生医学会会長

今年は、地球温暖化の影響が例年より寒さが一段と厳しく、関東地方にも例年に増して、降雪の多い年となっております。皆様におかれましても、御身体に気を付け寒さを乗り切り頑張りましょう。

三世管長正義先生のお言葉に

「私共は靈肉救済を念願としておりますので、人間を個体としてみる見方と同時に、精神的な悩みにも、治療を施さなければなりません。その為にも、的確な診断が必要になります。治療を行う際には、患者さんの症状を次の三つに分けて考えるべきです。

- \*この疾病は必ず治すことが出来る。
- \*この疾病は治せるが、経過によっては治療を中断しなければならない。
- \*この疾病は治療ができない。

患者さんの声に素直な心で、耳を傾け、良く聞き、良く触れ、良く話合うことが大切なのです。これからの時代の心がまえは、一つには、感謝の心を持って治療にあたること。二つには、奉仕の精神で治療にあたることです。

この二つを徹底して実行するためには、信心をいただいて、仏恩に対する感謝が必要です。くれぐれも、「治療してやる。」という驕りを捨てて仏恩報謝の心を忘れずに治療にあたって欲しい」と述べられております。

私共は患者さんに、先生、先生と言われている間に、つついどどんな病気でも治せると安易に考えてしまいがちですが、「邪見驕慢じゃけんきょうまんにならぬよう、自己反省することじゃ。」との長生上人のみ教えの意味をも、しっかりと心して治療に当たらなければならないと、つくづく思われる今日この頃です。

さて、機関紙上にもお知らせしておりますが来年度会費、及び長生保険の更新がございます。治療上の事故など何時起こすか解らないものですから、未納における無保険状態にならない様をお願いいたします。

日々患者さんの為に治療させていただいておりますが、一瞬の気の緩みで事故を引き起こして、多額の賠償を背負うことに成りかねないのが、現実であります。日々気を引き締め、一人一人の患者さんの肉体的状態を察知して頂きたいと思っております。

合掌